



●トレンチ46 (宮ノ後地区)  
 あらたに溝が見つかりました！  
 溝の幅は1m前後、深さは16cmほどで東西方向にのびています。  
 溝の両岸に握り拳ほどの石が並べてあります。

●トレンチ47 (六所脇地区)  
 昭和45年度調査区を再発掘。そして新たな土坑、溝も確認されました！  
 土坑は、東西1m90cm、南北1m40cm以上の大きさです。たくさんの捨てられた石に混ざって、瓦や須恵器が出土しました。  
 溝は南北方向にのびており、長さ1m55cm以上、幅は1m25cmです。深さは10~15cm。瓦や土師器が出土しています。

○堂田地区  
 平安時代後期の道路跡、溝、土坑、建物の柱穴などが見つかりました。

注目されるのが、道路跡です。奈良時代の『出雲国風土記』には、国府の北側に、都から石見国に通じる、「正西道」と、国府から隠岐国に通じる「枉北道」が交差する「十字街」があったと記されています。今回、発見された道路跡は、じつは「枉北道」の推定線にあたります。この推定線からは、現在の道路の西側、大舎原地区で、奈良時代後半の道路側溝と道路に渡した橋の部材が見つかっています。今回の発見により、「枉北道」から続く道がこのあたりを通っていた可能性が高まったといえるでしょう。